

## 愛の奉仕としての伝道

今晚私は愛の奉仕としての伝道という事についての祈りの題目に応じて、お話になるか否か知りませんが感じたところを率直に述べて責を果したいと存じます。

人生の原動力は愛であることは何人も異存のない所です。そして愛は長久までも絶ゆることなしで、感情的に申しましても、愛の永遠性ということは信じられなければならない根本的な人生の事実であります。それ故に、「愛は神より出す、おおよそ愛ある者は神より生れ、神を知るなり」とヨハネは書いて居ります。即ち、愛は永遠の神の御心であり、神より生れたる作用であります。それ故に眞実の愛は神によつて確かにせられ、神に支えられ、神と共に在るものでなければなりません。

この世の愛は、如何に親子、兄弟、夫婦、恋人、親友、同志であつてもそれきりのものであります。私たちの家庭内の愛し合っている者も一度死という事に於てはその愛は此の世的には断絶してしまうのであります。泣いても、騒いでも、絶叫しても、死は永遠の別離であり、一切の闇黒の幕は生ける者と死せる者とをシャット・ア

ウトしてしまつのであります。泣き悲しめどもその甲斐なく、一族眷属嘆くともその甲斐あるべからず、であります。

それは死は罪の価だからであります。死は存在の消滅であり、「亡び」であります。死の解決即ち、死から永遠の生命に入るためには、悔改めと、罪の許しがどうしても必要であり、その赦しを経験して初めて眞の歓喜を経験するのであります。その歓喜が即ち福音であり、福音を伝えることが伝道であります。

若し伝道が此の世的のものであるならば、それは眞実でも眞理でも知恵でもありません。生命がけで宣べ伝えなるなどといふことはコケのサタで馬鹿馬鹿しい限りであります。また実際に単なる伝道の効果が或は人を信者にし、世を救い國を興すとは思われません。

然し伝道は此の世限りの事業でも仕事でもないのです。これは永遠の世界に関する事業なのです。「是わが福音にいえる如く神のキリスト・イエスによりて人々の隠れたる事を審き給ひ成るべし」（ロマ書一・一六）。

人は何人と雖も、活ける神の前に生活して居る事を田が覚めて知る日が来るのです。世の終りに於ては万人が万人、一人もかくるるといひなく審かれるのであります。「即ち律法の命する所のその心に録されたるを顯し、己が良心もこれが証をなして、その念互に或は訴え、或は弁明す」（ロマ書一・一五）。神の最後の審判のときは、表面の一切のものは露出され、我らの良心に鋭い刃が向けられて、何人も罪人たるを免がれないのです。

かかる大事を、神の愛は「キリストの血、すべての罪より我らを潔む」という福音を信仰によって私たちに『』えて下さったのであります。それですからこの歡喜を伝えない訳にはゆかないのです。愛する家族に、友人に、國人に、世界の人たちに、悲しみ、泣き、病み、死を怖れている誰彼に述べないでは、私たちの愛は此世限りの不真実のものとなってしまうのです。親子の愛も夫婦の愛も、不真実となってしまうのです。それ故に愛の現われとして、福音の伝道は効果があるもないもどんなに悪く思われても誠と忍耐を以つて宣べ伝えるのであります

「コリント前書第九章十六節「我福音を宣伝うとも誇るべきといひなし、やむを得ざるなり。福音を宣伝えずば我は禍害なるかな。」

「コリント後書第四章一節「恥ずべき隠れたる事を捨て、悪巧に歩まず、神の言葉を乱さず、真理を顯わして、神の前に口を凡ての人の良心に薦むるなり」、私たちは愛の奉仕を國家にせねばなりません。政治、經濟、社會事業、何れも奉仕であり、これに携るのは公僕であり、志士、國士、仁者であらう。然し、我らは時には無用の長物の如く扱われ、又、いやしめられ、毛嫌いされてくる。然れども私たちキリスト者の社會奉仕、愛の奉仕は何であるか。「活ける神は、罪ある者を人も國も滅ぼし給うべ」とこの信仰によつて、日本国民の良心革命を促す警鐘を打ち鳴らし、その救國の至誠を隣人に至すことである。この神の刃と十字架の旗を高くかざして、魔と世界とに闘うのであります。

腐つた良心、惡魔を喜ばせる唯物思想を以つては、日本国は救われないのです。

ヨハネ伝第八章四十一節・四十七節に今日の日本や世界がキリスト・イエスを信じないその状と同じ姿がハッ

キリ書いてあります。キリスト者の伝道、愛の奉仕は、この良心の奉仕によつて日本民族をキリスト教民族にす  
ること、それに依つて、愛と平和と戦争なき国を来らせるのであります。私たちは肉身を愛し、隣人を愛し、國  
家を愛する。然しそれが単に此世的のものならば、それ限りである。眞の愛の奉仕をなさんとするならば、イエ  
ス・キリストの福音を伝道する外ありません。

神は私たちの教会と教會員をそのために、日本人の中から選んで、この教会に属せしめ給うたのであります。  
教会の内外のことの一つでもこの愛の奉仕、眞実の愛としての伝道、この外に出するものはないと存じます。

(一九五一年一月八日、札幌北一条教会にて)